

## Ecola

イ・コ・ラ

No. 2

発行 2002年2月7日

みなさん、こんにちは。冬真っ盛りですが、お元気でしょうか？

秋の延々と続くさまざまな行事、年末の何だかわからないあわだたしさを、そして、知らぬ間に年が明け、2002年……この半年を振り返ってみると、そんな感じではありませんか？ 過ぎゆく時の速さに、フーッとため息をついたりすることもあるけれど………よっしゃ！！ 今年も気合い入れてがんばりましょう！！

紀北分会においても、この半年の間にいろいろな活動がおこなわれました。このイコラNo.2では、そのいくつかをお伝えしたいと思います。また、“ご存じわれらが岡先生”が、ワンポイント・アドバイス・コーナーを引き受けてくださいました。必読ですヨ！（さらに、“イコラ”という名の謎あかしもお見逃しなく！）

### シャンソンのコンサート会場で、自閉症理解のためのビラくぼり

**啓発活動** 7月7日、会員さんの仲介により、シャンソン協会様のご好意のもと、和歌山市民会館で開催されたチャリティーコンサート会場において、大久保県支部長を始め、津田分会長(副支部長)、紀北分会役員数名で、一般の方への啓発活動を行いました。県庁関係各課・養護学校・施設・作業所等、関係機関への啓発は行っていますが、一般の方を対象にした啓発活動は、今回が**初めての**試みでした。自閉症協会発刊の「自閉症の手引き」の数ページを抜粋して印刷したパンフレットを配布しました。

知らない人に「読んでください」とお願いしながら、何かを手渡した経験がありますか？ 大久保支部長(仕事に関係して経験ありますよ)以外は全員初めての経験でした。拒否されたら**どうしよう**という不安、知らない人に声を掛ける恥ずかしさもありました。最初は、なかなか足が前に出なかったり、声を掛けられなかったりしましたが、やはり親ですね。「自閉症を理解して欲しい」という思いが強く、全員声を掛けな

がら手渡すことが出来ました。不思議です。“最初”を乗り越えると**楽しさ**さえ感じます。とても良い経験になりました。「いらない」と拒否された方も数人いましたが、内容を伝えると全員の方が受け取り、コンサートが始まる前に読んで下さっていました。1170枚を配布することが出来ました。

このような場を提供して下さったシャンソン協会様のご好意に感謝しています。これを機会に、今後も一般の人への啓発活動も始めようとパンフレットを3000枚作成し、残りを各分会で保管しています。啓発活動の場の案等がありましたら、事務局あるいは分会からの県支部役員(津田・御前・花井)までご提案下さいますよう、お願い致します。勿論、啓発活動以外でも、県支部への希望・提案をお待ちしています。

後日、シャンソン協会様から、県支部へ10万円の寄附も頂きました。役員会で検討し、有意義に使わせていただきます。**ありがとう**ございました。

県支部事務局 石橋智恵子

## 県支部総会とアニマルセラピー体験

参加された方々が、感想を寄せてくださいました。

平成13年9月1日(土)から2日(日)にかけておこなわれた和歌山県自閉症協会総会に初めて参加いたしました。私は5人家族で、家族みんなで旅行することはあるのですが、自閉症児の二男の亮太(6歳)と、父親の私の二人だけでの一泊旅行は、これがはじめてでした。妻はだいぶ心配そうでした。

南部町の紀州路という観光旅館でおこなわれました。午後3時ごろ到着して、すぐ、近くの海にいったのですが、波がきつく、就学前の子供には、泳ぐのはやや無理でした。美しい夕焼けをみながら、さきに温泉に二人ではいりました。夕食も子供には、お子様ランチを用意してくれており、また部屋割も、ふたりだけにしていただき、ご配慮ありがたく思いました。当日の夜は、ボランティアの方が、亮太をみてくださり、午後9時には、部屋で子供は就寝してくれました。いつも



自宅では、夜12時まで寝ないのですが、ボランティアのお姉さんが、とてもよかったようです。和歌山県庁の福祉課のかたの行政上の話もきけて、これからの我が子の将来について考えさせられました。

さて、翌日のアニマルセラピーがおこなわれました。田辺市郊外の方のご厚意で、馬に乗馬するというイベントをおこなってくれたのですが、これがとてもよかったです。二年前、夏休みに北海道旅行したさい、ケンタッキー牧場で亮太を乗馬させた時は、とてもたのしそうでした。今回は、2回も乗せてもらい、とても楽しかったようです。和歌山市の近くでも、こんなことができる場所があればいいのですが。

同じ自閉症の子供を持つ方々と、たくさん知り合えて、有意義な2日間でした。

木下和也



今回は、プールがないのでどうしようかな、と思いました。その上、うちの子は、動物との関わりなどほとんど出来ないし、犬の近くに寄れる程度でさわる事など出来ません。それに現地集合になっていたのも不安につながりました。不参加も考えたのですが、まずは観光バスを出していただいた事にお礼を言います。ありがとうございました。

次に、不安に思っていた馬ですが、よく出来た素晴らしい馬という事もあるのですが、子ども達の素直さと好奇心もあるのかな、怖がる子が誰も無く、むしろ喜んでいたり、満足しているようにも見えました。うちの子も乗れないのでは、と思ったのですが、まわりの人の誘いもあり、乗るのもすんなり。降りた時にはみんなと同じように乗れたとい



う満足感があつたようにも思いました。参加した親達も、どうなるのかなと思ったと思いますが、子供達が見事に裏切ってくれ、楽しく馬の散歩が出来た事に感謝しています。

今回は、講演も良かったし、参加して良かったと思います。

ペンネーム “Uーさん”

## 勉強会にいろいろ

去る9月20日（木）、ふれ愛センターに於いて勉強会がおこなわれました。小さいお子さま連れでもだいじょうぶなようにと、担当者の配慮がうかがえる和室を確保してくださっていました。出席者は14名。県との対話集会に向けての意見を出してもらうには、2時間という時間は短く感じました。ここで出された意見は、プール等利用時の男子更衣室についての問題と、自閉症児者のとった行動をセクハラ問題とされたということなどです。

みなさん、本当はもっと思っていることや、こうだったらいいのにとか、どうして和歌山はこうなのか等、地域でのこと、学校でのこと、施設でのことなど、いっぱい感じているはずですよ。私たちの子どもは、コミュニケーションに決定的なハンディがあり、理解されがたく、誤解をまねきやすく、混乱しながらも懸命に生きています。親である私でも、子どものことをきちんと理解できているかと言われると自信がありません。なのに、県の障害関係の方々を理解できようはずがないのは、しかたがない当然のことです。理解に自信のない親でも、子どものために**代弁者**となってやって、自閉症の理解者を増やしていかないと、何も変わりません。内輪でいくら言っても変わりません。

勉強会を年間何回かもっていますが、とりわけ対話集会前の毎年この時期の勉強会には、大きな意味があると思います。集会当日に突然、意見を勝手に言うわけにはいきません。事前に事務局から県に質問、意見等を提出して、それについて対話するわけですよ。そんなところで意見なんて**言えない**……なんて言っている人は、事務局が代わって言ってくれます。（やさしいでしょう！でもそれに甘えていないで、なるべく自分で言いましょ。自閉症の子を育てていると根性もすわってきますよ。）というわけで、自閉症の子どものためには、根性のある親も、根性ない親もとりあえず来年のこの時期の勉強会にはぜひ出席して下さるか、どなたかに意見等を託してください。

県とのこういう会をもっているのは、他の会からたいへん羨ましがられます。私はすでにどの会も、もっているものだと思っていましたが、これは先輩会員の方々の努力のたまものと聞いて、感謝しています。（おそるべし！この**根性**！見習わなくては！）自閉症児者のために、少しずつでもいいから理解者を増やし、子ども達の生きていきやすい和歌山にしていけるようお願いしつつ…

（現在更年期うつ病 ツダチーママ）

県との対話集会は、先日、1月18日に行われました。

議事内容についてお知りになりたい方は、事務局までお問い合わせください。イコラでも、できれば次号で少し、お伝えしたいと思います。

## 新入会員さんから

先日、ダダ母さんの講演会は、とても良かったです。また、あのようなお話は、ぜひ聞きたい。お母さんのお話が一番勉強になります。今年4月に、自閉症協会に入会したばかりです。この会の取り組み、活動も少しずつですがわかり、たくさんの方との交流を深め、いろいろ助言していただき、勉強して、親子ともども良き成長ができれば、と思っております。これから長いおつきあいになると思いますが、よろしくお願ひします。

このようなメッセージを新入会員さんからいただきました。

私が自閉症協会へ入会して3年になります。わが子は7才、小学校1年生になりました。2才で和医大で診断され、3才であおい学園へ入園しました。あおいへ入ったら、同じ障害の子を持ったお母さんのお話が聞けると思ったのに??????

「うちは、自閉的傾向です。お医者さんに言われたし……」「うちは、全くことばはないけど、知的な遅れはないの。」 と……。

「え〜〜〜〜。自閉症なんは、うちの子だけ？うそ〜〜〜！」の毎日でした。ダウン症のお母さんたちには、「ゆうちゃんとXXちゃんは違うの？」「自閉症と自閉的傾向は違うの？」「ダウン症で、ダウン的傾向なんて言う人いないよ。」と言われ、「自閉症もそうなんだけど、まだまだね。難しいのよ。」と答える私。

それから、いろいろな勉強会に出て、この会に入会しました。やっと、**同じ**障害、同じ考えを持ったお母さんに出会えたと思いました。私たちの子どもは、障害の中でも、最も難しい障害と言われています。なのに、母親でさえもまだまだ…これが実態です。でも、ゆっくり

ではありますが、この障害も、医療、教育ともに進歩しています。それを把握するのは、最新の情報「いとご」等、自閉症協会の機関誌を読むことが一番です。みなさん、もし、近くに悩んでいるお母さんがいたら、そう**声をかけて**みましょう。  
(フジワラ)

### ダダ母さん講演会に、なんと参加者が100人

ホームページ「ダダ母通信」や、コミック誌「光とともに」のあとがきなど、今をときめくダダ母（奥平綾子）さんの講演会を是非！という会員さんたちの要望をもとに、勉強会担当の木下班長は、直接ダダ母さんにメールで依頼。何度かのメール交換から、今回、講演会実現となりました。

当日、JR和歌山駅への出迎え、「分からなかったらどうしよう…」という不安と緊張いっぱいの木下さん。けれども、「**織田裕二**の女パン？と思って！」とのダダ母さんのメール通り、ショートヘアの似合うカッコイイご本人とまもなく対面できました。長旅の疲れも見せず、会場に着くとすぐ講演を始めてくださり、笑いを交えながらも、一言も聞き逃したくない内容で、あっという間の1時間半。終了後の**質問攻め**にもテキパキと答えてくださり、さすがダダ母さん！と大拍手の講演会でした。（ツジノ）



参加された方の感想です。

#### ダダ母さんの講演を聞いて

子どもが小さい頃、もっといろんな人から話を聞いたりして視野を広げておけば…と思いました。あっち向いてこっち向いてといったらもう居ない、というほど多動で、毎日振り回され、子どもの心まで手が届かない状態でした。ダダ母さんの話の中の『本当は、誰が一番つらい？』の部分でも、やはり子どもの事より私自身がちゃんと出来ない、動き回る子供を「恥ずかしい」とか、「困ったな」などと思ったりと、『本当は子供が一番つらい』が分かってやれませんでした。

そういう状態の中、親になって7年程たって子供

の心の中に「便利な人（ダダ母さんの話の中）」から、「お母さん」へと少し存在が見えてきた時、「ちゃんと分かってあげれば子供も楽だったのに」と思いました。「周りを気にしないで」と言うには時間はかかりますが、自分もこの子と一緒に育っていけば、という気持ちから子育て、親育てが始まりました。小、中、高（養護学校）の先生方や会のお母さん方に支えられながら現在に至っているような気がします。子供はもう作業所に行っていますが、これからも子供に育てられながら、また、子供の気持ちも理解しながら「親」やって行こうと思います。

## バスツアー 関西サイクルスポーツセンターへ

今年のバスツアーは、関西サイクルスポーツセンターに行きました。ちょっと寒かったけれど、「乗り物だ」「アスレチックだ」と、子ども達は、元気に楽しく遊んでいました。お父さん、お母さんたちにとっても、日ごろなまりになまっている(?)身体を動かすいい機会となったのでは? でも、みなさん、足腰だいじょうぶでしたか?

佐武くんが、感想を寄せてくれました。ありがとう。

バスツアーの思い出(佐武孝章)  
十一月十日、麦の会バスツアーがありました。行ったところは、関西サイクルスポーツセンターでした。バスの中でビンゴゲームをして、ポテトチップスももらいました。サイクルセンターでは、みなでお弁当を食べました。おいしかったです。それから遊びました。一番楽しかったのは、サイクルコースターです。2番目は、ヨーヨーサインガーです。3番目は、ロッキングサイクルです。最後は、サイクリングコースで何周もまわりました。いろいろと遊べて楽しかったです。また行きたいです。



## 自閉症療育セミナー(県主催)での保育に初挑戦

去る12月8日、1月13、14日の3日間、和歌山県主催の自閉症療育セミナーが今年も開かれました。主に、TEACCHプログラムの基本的な考え方や方法について、講義、演習などによって实际的にわかりやすく学べる勉強会です。これまでは、会員が個人的に参加するのみで、自閉症協会としては、直接関与していませんでしたが、一番の当事者である本協会として、何らかの形で、協力したい(せねば)という思いもあり、また、希望する会員に少しでも参加し

やすい環境を提供できれば、ということで、「保育しよう!」ということになりました。

と言っても、3日間全部というのは、やはりいろいろな事情が許さず、「では、せめて、基調講演の時間だけでも…」ということで、セミナー最終日の午後に行われた講演参加者のための保育を行うことになったのです。

では、そのようすを少し……。

## 保育奮闘記

当日、保育対象の子ども7人（自閉児4人、兄弟3人）、保育者7人（和生ボランティア2人、**ヤング**母ちゃんズ5人）。

12:30

ヤング母ちゃんズ、子ども・障害者センター体育館集合。研修室の構造化、遊具の準備など開始。何から何まで用意周到のミサ、すべてについてチェックに余念がないイハシ、娘の本やおもちゃをかき集めてきたツバにまじって、「用意してたブロックや絵本とかをぜ～んぶ車に積んでくるの忘れた！」ウエノ、「どうしよう。ちょっと少ないかな。」と思案しているところへ、セミナーで使った教材など持ってツバ登場。ウン、これ使える。

1:00

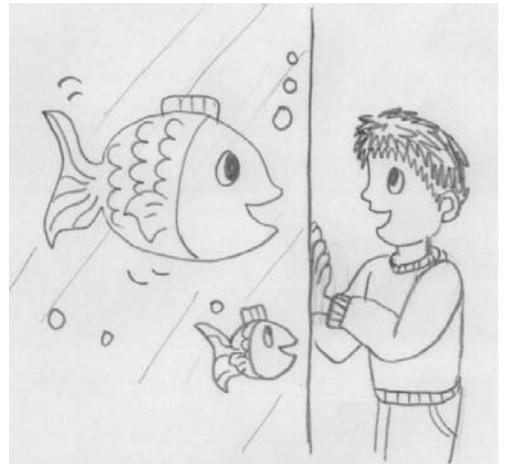
ボランティアの2人、登場。初めての保育体験とあって、ちょっと緊張気味。

1:30

ぞくぞくと子どもたち来場。年齢は、2才から7才、タイプはいろいろ。ヤング母ちゃんズ、それぞれ昔?を思い出しながら、だっこしたり、追いかけたり…。

2:00ごろ

みんなで**水族館**に向かって出発！ 暖かく、いいお天気なので、「気持ちよく散歩ができるぞ。」と、おとなたちは誰もが最初そう思いました。和生のお姉さんを振りきるほど急ぎ足で絶好調のAくん、和生のお兄ちゃんの背中にしがみつくとBくん、ツバに手をひかれ、ゆっくり時々休みながらもがんばって歩くCくん、「だっこ！」とウエノのほそ?腕から絶対に降りようとしなないDくん、兄妹の2人は、元気すぎるほど元気に歩き、時々ミサをハラハラさせ、もう1人のちっちゃな弟くんは、ツバとお部屋でおねんねでした。水族館に着くと、なぜか必死で逃げるようにはかけ出すBくん、暗いところが苦手なのかな?お兄さんとともに、お外で遊ぶことに…。受付で支払いを済ませてイハシも汗だくで2人を追いかける。他は全員水族館の中へ。それぞれの興味のまま水族館を楽しんだ（さすがに中ではスムーズでした）後、またまた、それぞれのペースでえっちらおっちらセンターに戻りました。フ～！



3:30

おやつタイム。みんなすわってとても静かに、とてもおりこうさんにおやつを食べました。きみたち、さっきまでのにぎやかさは何だったの？

4:00

**サーキット**・タイム！ これこそヤング母ちゃんズが、もっとも密かに楽しみにしていた時間でした。日ごろ一人ではなかなかできないシェイプアップ、「帰ったらすぐ体重を計ろう！」と心に決め、シーツブランコに、段ボール箱のそり引きに……残念ながら予定より講演会が早く終わったため、時間は短かったのですが、がんばりました。

5:00

後かたづけを終え、終了。ボランティアの2人も「楽しかった。」と言ってニコニコ帰っていききました。ヤング母ちゃんズ、無事に終わった開放感とともに、若干の疲れ（主に肉体疲労）をかかえ、それぞれ帰路に。我が子の幼い日を思い返し「大きくなったもんやなあ」とちょっと感傷にふけりながら、また、今日のあの子たちのよき成長を祈りながら…。本当に**楽しい**一日でした。

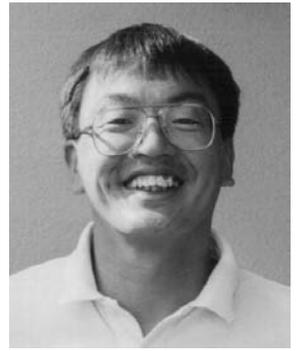
だけど、筋肉痛、3日続きました。シェイプアップは……む、むなしい結果に…。

岡先生の

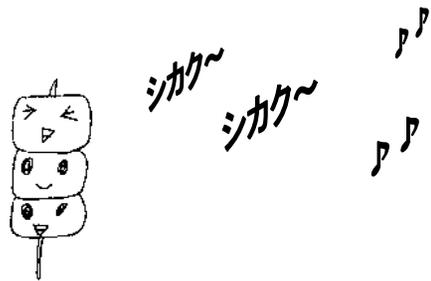
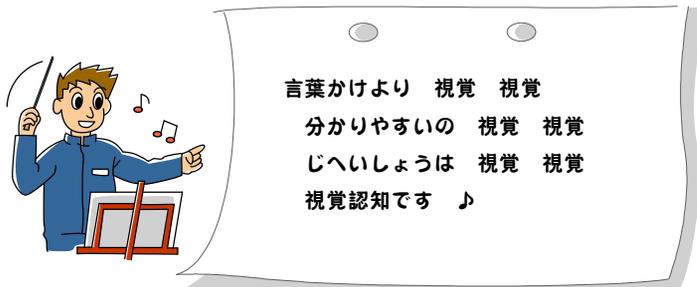
## ワンポイントアドバイス①

## 「視覚支援を大切に」

附属養護学校 岡 潔



以前、自閉症協会愛知県支部の会報「SHARE」に、「だんご3兄弟」の替え歌で、う～んうまい！とうならされた歌を思い出しました。ぜひ紹介させていただきたいと思います。



どうでしょうか。この替え歌集には他のバージョンもあり機会があればまた紹介させていただきます。

自閉症の人は、まわりの世界の意味を話し言葉で理解することは苦手です。しかし、視覚認知は得意としています。自閉症の人の中には、実用的な話し言葉を持たない人が約半数いると言われていますが、その人も生活するためにはコミュニケーションをしなくてはいけないわけです。そこで視覚認知の強さを生かさない手はありません。絵や写真や文字などの視覚支援が言葉の代替として有効的な手段になりうるのです。言葉話をしている自閉症の人にも視覚的な手がかりは言葉を補う手段として有効であったりします。私たちはつついづい便利な話し言葉をあびせかけてしまっていますが、言葉で何度も言うよりも視覚的に伝えた方が意外に早く伝わったという経験をされたことはないでしょうか。また、欲しいものの要求や援助を求める依頼などに、それを示すカードを作ってあげ何度か練習すると、うまく伝達手段として活用してくれたりします。視覚支援は、コミュニケーションの表現も理解も支援してくれるのです。

「我、自閉症に生まれて」の著者で高機能自閉症者のテンプル・グランディンさんは、話し言葉や文字を一度頭の中で音声付のカラー映画に置き換えて意味を考

えていると言っています。話し言葉のような聴覚からの情報は、すぐに消えてしまいます。視覚的な手がかりは、情報が消えずに目の前に残りますから、記憶を助ける利点もあり、確かで安心した情報が得られるわけです。視覚支援には、文字、絵シンボル、写実的な絵、写真、実物があります。その人にとってわかりやすいものを使うことが大切です。また、複数の視覚支援をもっていることも心強いことです。視覚支援をうまく活用することは、自閉症の人のコミュニケーション能力を伸ばし、生活に広がりをもたらしてくれます。ぜひ積極的に取り入れてみてください。



## イコラという名前の意味は？

このニュースレター、「イコラ」などという不可解な名前がついています。みなさんも「何それ？」「どういう意味？」と思われたのではないのでしょうか？その提案者植野氏が、その謎といきさつについて語ってくれます。

「イコラ」っていう名前、なんだろうと思った方も多いのではとお察しいたします。「いったい何語なんだろう… あれっ、まさか、『連れもて行こら』のイコラじゃないよね。」…うーん、ジッ、実は、そうなんです。(^^);

ある日、仕事から帰って、例によってビールを飲んでいたときに、連れ合いが相談に来ました。「紀北分会のニュースレターの名前ねえ…」と、私は緩みきった頭にチカラをいれて考えてみました。その時、思いついたのがこの名前です。確かに私はビールを飲んでいました。でも、このとき「連れもて行こら」の言葉が私の頭を駆け抜けたのは、そのこととは誓って関係アリマセン。みなさん、そ、それは考えすぎというものです。

では、なぜこの名前にしたのかを説明させていただきます。1つは、このニュースレターは、なんといっても、和歌山に住む私たちのためのものなのだからと、和歌山をイメージする名前を考えたいわけ。「いとご」を読んでいると、その内容が必ずしも自分の関心とは一致していないように感じるのは、私だけでしょうか。関係者一般を対象とした全国版の記事だけでなく、親の視点に立った記事を読みたい。トウキョウの話でなく、ここ和歌山の、自分たちの、いや、自分にとって意味のある情報がほしい。また、会員が生の声で、心配や不安について語ったり、疑問を投げかけたりする場がほしい。ともかくローカルに徹して、**本音**で話そうという意味でも、和歌山弁が「ええやんか」と思ったわけです。



「イコラ！」という言葉には、何かをふんぎるかのような、まっすぐ前に進もうとするような響きがあります。右肩上がりの、宙に浮かんだ軽やかな字体を選んだのも、この前向きな気持ちを表現したかったからです。また、この言葉は、人に呼びかけているようで、実は、「**行くんやソ**」と、自分自身のそんな気持ちを確かめているようでもあります。そこには「呼びかける人」「呼びかけられる人」、「する人」「される人」といった区別なく、人も自分も同じ気持ちで歩もうとする連帯意識が感じられ、さらに、「連れもて行こら」のなごやかで明るい雰囲気も連想されます。また、これが会員相互にとどまらず、広く社会にむけて開かれた会のイメージにもつながるのではと思ったわけです。

ところで、ローマ字の Ikora では、「アイコラ」とも読めてしまいそうだし、芸もないような気がして、つづりは英語風に **Ecola** としました（だからといって、どれほどの芸があるかは疑問ですが…）。合衆国オレゴン州にこの名の国立公園があるものの、それ以外、少なくとも英語としてはこの語は使われないうですし、特に何の意味もありません。ポカリスウェットの「汗水」、カルピスの「牛のオシッコ」なんて、ヤバイ響きもないと思います。とってローカルだけど、名前だけは「国際的？」に通用するはず。ちなみに、アクセントははじめの“**E**”につけて発音するのが私の好みです。

「ほな、連れもて、イコラ！」

植野雄司

## 事務局からの伝言板

- ☆ 来る3月3日(日)におこなわれるつながり文化祭では、今年も**バザー**を出店します。活動の大切な資金となりますので、物品のご協力よろしくお願ひします。
- ☆ 講演会の**ビデオ**(自閉症セミナー、ダダ母さん、岡先生、他)レンタルできます。ぜひ、お問い合わせを。

**編集後記**：待ちに待った(?)イコラ第2号！ いかがでしたか？ もしかして一気に読みしただけなのでは？

寒い冬のまっただ中、行き交う親父ギャグ、やたらと冷えこむふところぐあい……ひえひえ……ブルブルでも、私たちにはコレがある。さあ熱くなりましょう！「また子育てがんばるぞう！」と燃えましょう！

よっしゃ！**もうっかい**読むでえ～！ では、ご一緒に！

編集スタッフ：  津田弘美  藤原昌子  植野比呂美  辻野知津) 年齢順???

《発行》イコラ編集局(連絡先)植野比呂美